多母集団分析による 30 代女性の主観的幸福感

—ライフコースの観点から—

○谷畑まゆみ・渋谷昌三¹

(¹ 目白大学社会学部)

キーワード：30 歳代女性, 主観的幸福感, 人生満足度

Multiple-group analysis of subjective well-being in 30 years-old generation woman

Mayumi TANIHATA, Shozo SHIBUYA¹

(¹ Meiji University)

Key Words: 30 years-old generation woman, Subjective Well-being, Life Satisfaction

目 的

先進諸国の中で、日本は幸福度が低いとの指摘がある。しかし『国民生活選好度調査』(内閣府, 2011)によると、近年では男性よりも女性の幸福感が高く、最も高い世代は 30 歳代女性であった。山田 (2007) は、幸福感への影響要因は生活環境に起因し、希望するライフコースの選択が幸福感を高めると述べている。30 歳代女性は結婚や出産など、20 歳代やその後の世代とは異なる葛藤や課題を抱えていると思われる。本研究では、30 歳代女性における主観的幸福感に注目し、それぞれのライフコースによって幸福感の構造が異なると考え、それらを探索的に検討することにした。現時点での属性 (婚姻の有無×仕事の有無×子どもの有無) から 8 種類のライフコースを想定したが、少数の特殊なコースを除外して 6 コース (シングルキャリア群, シングルマザー群, 専業主婦・妻群, 専業主婦・母群, DINKS 群, ワーキングマザー群) に特定した。この 6 コースに基づき「ライフコース別の幸福感モデル」を提案し、幸福感に関する新たな視点を示唆することを目的とする。

方 法

調査対象者：首都圏在住の 30 歳～39 歳の独身・既婚女性 577 名 (平均年齢 34.94 歳, $SD=2.85$)。対象者の内訳は (1) スノーボール・サンプリングにより自作の Web サイトで質問紙調査を行って得た 161 名 (平均年齢 34.60 歳, $SD=2.94$) と (2) ライフコースの属性に偏りが出たため、Web 調査専門会社に委託して得た 416 名 (平均年齢 35.05 歳 $SD=2.82$)。属性が概ね均等に配分された総計 577 名 (平均年齢 34.94 歳 $SD=2.86$) のうち、回答に不備のない 557 件を分析対象とした。

調査時期：2012 年 8 月～9 月

質問紙構成：(1) 主観的幸福感尺度 (伊藤ら, 2003) (2) 人生に対する肯定的評価尺度 (角野, 1995) (3) 改訂版楽観性尺度 (坂本・田中, 2002) (4) 幸せへの 3 志向性尺度 (熊野, 2011) (5) ポジティブ・イリュージョン測定質問紙 (外山・桜井, 2001) (6) 特性的自己効力感尺度 (成田ら, 1995) (7) デモグラフィック属性、ライフイベント、学校卒業後の人生の選択等 (8) 購読雑誌 (頻度、種類、関心記事) (9) 雑誌のマニュアル利用行動について調査した。

結 果 と 考 察

共分散構造分析を用いて、楽観性と主観的幸福感の関連はポジティブ志向によって媒介されるという先行研究に基づき検討した結果、30 代女性の「幸福感の共通モデル」(潜在変数間の経路をパス係数から判断した結果、楽観性から幸せの志向性、幸せの志向性から人生満足度にポジティブな影響を及ぼし、人生満足度が幸福感を高める) が得られ、先行研究を裏付ける結果となった。さらに多母集団の同時分析を行いライフコース別に検討したところ、主観的幸福感への経路は「幸福感の共通モデル」と同様の結果が得られた (Figure 1.) が、専業主婦・母群の経路のみ楽観性が人生満足度を高め、人生満足度が主観的幸福感に影響を与える (Figure 2.) が示された。「幸

福感の共通モデル」のライフコース間における差異は、楽観性から主観的幸福感への経路の差異、幸せの志向性の下位因子のパス係数に差異があることが明らかとなった。以上のことから、ライフコースの複雑化とともに女性たちの幸福の構造も複雑化した可能性が推測され、幸福感をもって生きるための指針の一端が示された。

「ライフコース別の幸福感モデル」の共分散構造分析結果

Figure 1. 多母集団の共通モデルの共分散構造分析結果

Figure 2. 専業主婦・母群の共分散構造分析結果

引用文献

内閣府経済社会システム (2011). 平成 22 年度 国民生活選好度調査 2011 年 7 月 7 日. , 山田憂子 (2007). 『勝ち組・負け組』論の真実-JGSS-2002 データにおける幸福規定要因分析からの考察-大阪商業大学 JGSS 研究論文集 6

本研究は、平成 24 年度目白大学大学院心理学研究科修士論文の研究結果の一部である。

注 1) Web 調査は (株) マクロミルを通じて実施した。